

第1回農業再生協議会に関する研究会の開催結果について

1 開催日時

令和5年8月22日（火）午後7時から8時まで

2 場所

オンライン開催（Google Meetを使用）

3 開催内容

- (1) 報告「農業再生協議会に関する研究会の説明」
（一般財団法人農政調査委員会専門調査員 小川真如）
- (2) 意見交換

4 議題

- (1) 農業再生協議会に関する研究会の開催について
- (2) 農業再生協議会に関する研究会の開催方法
- (3) 第2回農業再生協議会に関する研究会の開催について

5 審議内容（結果）

(1) 農業再生協議会に関する研究会について

ア. 研究会について

研究会の目的、構成員、事務局について説明された。

「農業再生協議会に関する研究会」は、さまざまな立場と多様な意見をもつ実務者、有識者、業界関係者により、農業再生協議会に関連する各種の実態の情報共有や、農業再生協議会のあり方について議論する場である。

イ. 開催頻度について

開催頻度は1～2カ月に1回とするが、各種状況に柔軟に対応して開催することが確認された。

ウ. 参加者からの意見・提言

- ・農業再生協議会はその役割の多様さから、関連する法制度や実態は多岐にわたる。このため、幅広い内容について情報共有や学びの場になると期待される。
- ・地域農業再生協議会の担当者同士は情報共有や意見交換をすることがある。そして、現状の批判や制度の矛盾などで議論が終わることがすくなくない。しかし、いざ生産者と対峙すると、批判などを言っているだけでは済まないところもある。
- ・地域農業再生協議会の担当者同士は、同じ都道府県内では交流があるものの、他の都道府県とは接点がない。

- ・農業再生協議会として、今後5～10年といった目標も重要だが、1、2年でスパンでも何か改善策が示したいと思う。この研究会の参加者が増えることで前向きなエネルギーが得られればと思っている。
- ・農業再生協議会の担当者として配属されたことを機会に、農業再生協議会の歴史的な流れなどを自分なりに調べてみた。農業再生協議会には、担い手の問題、農地の問題、米生産調整という3つの理念があると思う。しかし、「人・農地プラン」にしても「地域計画」にしても、ほぼ、農業再生協議会の外で議論が進んできた。逆にいえば、農業再生協議会の立場から、「地域計画」等に対して、提言できるものがあるのではないかと思う。
- ・畑地化の推進を進める以上、畑地のビジョンというも生産者がどのように意識しているのかが気になる。

エ. 研究会の立場に関する認識の共有

- ・「農業再生協議会に関する研究会」は、さまざまな立場と多様な意見をもつ実務者、有識者、業界関係者により、農業再生協議会に関連する各種の実態の情報共有や、農業再生協議会のあり方について議論する場であることを参加者の間で共有した。

実務者には、農業再生協議会に関連する農業生産者、農業再生協議会や農政局の事務担当者などを含む。

- ・ネガティブな批判に終始することなく、情報共有や学びの場、改善策の検討などポジティブな場として参加者が意識することが重要であることを参加者の間で共有した。

(2) 農業再生協議会に関する研究会の開催方法

ア. 開催手段・日時・内容に関する決定事項

当面は、オンライン開催（Google Meet を使用）とし、将来的には対面、またはハイブリッド開催（会場およびオンラインでの開催）も検討する。

開催日時は、基本的に平日午後7時から8時までとし、各開催日は事務局が決定・周知する。

開催時間は、基本的に1回あたり1時間とし、1時間を超えて延長しない。

開催内容は、基本的に冒頭10分間が報告・話題提供、その後50分間を意見交換とする。意見交換では、冒頭10分間で報告・話題提供された内容はもちろん、関連しない内容であっても発言することができる。

イ. 参加方法に関する決定事項

オンライン開催においては、匿名可、カメラOFF可とする。

発言には、マイクまたはチャットを用いる。

発言をせず傍聴のみの参加者も積極的に受け入れる。

ウ. 参加ルールに関する決定事項

「農業再生協議会に関する研究会」への参加者は、守秘義務があることとし、この研究会で知り得た具体的な情報を漏洩することは禁止とする。

エ. 参加者からの意見・提言

- ・ 制度変更や各種通達に応じて随時開催してもよいのではないか。
- ・ 農業再生協議会に現状ではこのような情報交換の場はないため、現時点では参加者個人が特定できることには不安を覚える。実名か匿名か、また、カメラ ON・OFF は任意としてもらえるとうい。
- ・ マイクでの発言は、訛りや方言で、参加者の所在地や個人が特定される可能性があるため、マイクを使わずチャットで発言したい。
- ・ チャットでの発言は、長文の投稿が頻発し、会話が全体的に分かりにくくなる可能性があるが、まずはマイクを使わないことによるメリットの方が大きいように思う。
- ・ 研究会の内容はオフレコとして、参加者に守秘義務があることが望ましい。しかし、閉鎖的で良くない印象がもたれるのは望ましくないほか、今後の参加者が入りにくい雰囲気を醸成してしまう可能性がある。全体的にどのような内容かなどを整理した開催結果などを書面で整理して公表した方がよいのではないか。
- ・ 開催結果などを書面で整理して公表するほか、冒頭 10 分間の報告・話題提供の内容は、動画として YouTube などにアップロードすると、研究会に途中参加しやすくなるのではないか。それまでどういった内容が取り上げられてきたのか、確認できるとよいと思う。
- ・ 研究会として活発な発言のやりとりがなくても、農業再生協議会の事務担当者にとっては、同じ立場の人と悩みを共有できたり、まったり話せたりするだけでもありがたい。活発に意見を交換するだけでなく、そのような雰囲気でもよいのではないか。

オ. 開催結果の作成・公表について

「農業再生協議会に関する研究会」は、開催ごとに概要を整理した開催結果を作成・公表することが確認された。参加者に守秘義務があることから、開催結果は参加者に一定日数確認を求めたうえで公表することが、参加者の間で確認された。

(3) 第2回農業再生協議会に関する研究会の開催について

ア. 開催予定

令和 5 年 9 月 13 日 (水) 19:00-20:00

内容 = 「農業再生協議会の現状について」(一般財団法人農政調査委員会専門調査

員 小川真如)、意見交換

会場=Google Meet

会費=無料

イ. 参加者からの意見・提言

- ・2024年度農林水産予算の概算要求について、第2回か第3回で取り上げてもよいのではないか。